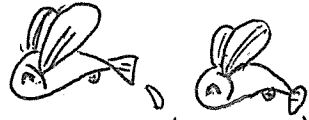


7がらの1月は森の子ども園だよ

<H.30.6.25>

6月にはいっても朝ひやりとして、夜中ねてはた暑かたし、日中も毎日、日がわりで、ひんやりしたり、涼しかったり、急に照りつけ気温上昇したりと、ころころ気候の変動ありだね。この気候に対応するため、人間の体もどう変わっていくの(よ)...

さあ、夏の厳しい暑さがやってきだね〜。
今年、暑さは、どこまでいくの(よ)か...。
今年も、子ども達と共に、いっぱい夏の遊びを楽しんでのりき、ていきたいもの(よ)〜。



〜子ども達のつぶやき〜

- ◎ お正人さんがお経をあげに来られた時のこと。
ゆいり「あ、うたをうたうんだ」
といて、ここのと2人で、正座をし、しばらくお経をきいてました。
- ◎ ここの「ここのか(にんげん)になつたらせんせいたちなく？」
こもり「ここのは今もにんげんだよ〜」
ここの「ちがーう!! いまは、こども(よ)〜!」
- ◎ ある日、ちおと おちこんでたゆいりの姿があったので。
こもり「どうしてこれ〜? はなしていいよ〜」
ゆいり「...あかね... こころがきもちわるから...」
- ◎ ゆいりが連日お休みだ、つ二日のこと。
ここの「ゆいりちゃんまだごめんね〜 もうちいさなもりのこもりにかえてきてもいいの(よ)〜」



みそ作り

今年度は、園児が2名の年中、2名児といっしょで、今年この量をこなすのは、無理なので、昨年度分量を減らして作業をしました。「手先を使う」での脳の発達を重要にして、鬼、で保育していることもあり、こころも、1つ1つになつてくるもので、園まりのこころを購入。それをつぶつぶに拍子でほぐしていく作業から、やっています。(今年はこころだけで2キロ400g)

この日は、年中ゆいりは、睡眠不足とあって朝からテンションが低かったのと、2名児さんのこころのこころでどうかな...と、思っていました。鬼のこころ、集中力があり、黙々とやっていたこころは、手先も、動きを追加しました。しかし、あのおおせりの2人が、無口になつてや、ていて、あとで、ためいきをつきだしたので、ギリギリのこころまでで作業を終了しました。

ゆいり、ここの、お、かあ、私、の4人でのこころつぶし作業でした。2日目の作業は、3時間煮た大豆をなめらかにするまでつぶし、前日にほぐしておいたこころと塩を、大きなたらいの中に入れて、体全体でまぜるようにして合わせています。それを、たしご状にして、空気をぬか(なから)、容器に入れ、おかしませます。この日は、理恵先生と4人での作業でした。

ここのは、みそだけや子の嫌がり、「せん」と言い、大豆をつぶせたりおかしをいやらせていましたので、まあ、2名児さんたちから...と、様子を見ていたと、こころ、あとで、作業の参加に、つなげる動きのタイミングをきか(き)ずし後半は、みそ作りに挑戦をしてみました。ここのさんは、特に、その活動についてのタイミングがポイントと私は思っていますので、その一瞬のタイミングをのりか(き)すようには、こころ。

園児数が2人で、静かな毎日を送っているが、少ないのをうめてくれるかのように、卒園生が、毎日、今現在も、(6月中も)、下校時に「ただいま」と、うちの園に立ち寄ってくれています。(ほんとは奇道はだめ?) 部活や習い事がある日は、これぞ、早目に、帰ったと、その子によってさまざまですが、6年生までの子ども達が、入れかわりニニに帰ってきて、宿題や、「先生、音読おげんきいって〜、と音読のサインをもらって、園児と遊んでくれたり、いろいろな話をしてくれたり...と、毎日、いろいろです。このような時間を共有できることは、私にとってありがたく幸せなことです。

そして、それにプラスして、気の知れた卒園生といえども、現代の社会においての子ども達の状況を知らずとも、でき、今後の保育子育ての方向性なども新たに考えるきっかけやヒントになっています。うちは、建物、中身ともに、保育も、私の考え方にしても昔風ですが、今の時代の流れにのらせてもらっている気がします。

卒園生(6年生男の子)のできごと
 うちの庭の前の通学路から、うちの庭におかして歩いて帰ってきている姿が足をひきずるの姿に見えたので、「どうしたの? 足がけがしたの?」と呼びかけると、「ちよっと事情があって...」と、玄関にはいって来ました。すると、その子の靴にちよっと弱ったとんぼがとまっていたのです。そのとんぼがおちなはくにと、歩いてきていたのです。



「先生、これ、なんという名前?」と聞いてきたので、すぐ本で調べた名前が「たんぼ」だったので、顔がゆがんでいて、弱々しいので、木の上へ逃げかしてあげよう」と話しあい、それ、逃げかしてあげた。卒園して、6年生になっても、保育園時代は、生き物を大切に育てた、ふれあっていた頃の姿が、今もあり、小さな生き物に対して、自然に好むの優しい気遣いがちゃんと残っていることを垣間見た時でした。その後、年中ゆいりかふいに話し出し、

ゆいり「○○ちゃん、とんぼ、たすけてあげたわー」私「やさしかわー」との会話ありでした。年中のゆいりも、そのお兄さん達の優しい振る舞いに気づき、優しさを感じとって、これもまたゆいりの中で大きなこととして、保育につながり、たどる思いです。

また、ある朝の日の会話の中で、(4年生女の子と6年生女の子、2年生男の子たち)
 「ニニが学校ならいいのに〜」
 「もどいたいな〜 楽しかった〜」
 「先生、ニニを学校にしたらいいのに〜」
 「うんうん、となりの家を学校にしたらいい〜」
 「それなら、卒園生みんなくるよ〜」
 ほんとに嬉しく、ありがたい会話でした。



◎ニニのは2才児さんなので、その月齢でのペースと、ゆいりは、年中さんですが、なかでもゆいりの超マイペースとかが重なり、出かけての活動、園での活動と、どれにおいてもゆたりペースで今年度は、流れていっています。7月は、またどう変化があるか、2人の成長がこれまた楽しみです。